



2011年9月

さくら

発行：偕行会透析医療事業部 さくら編集委員会

「偕行会城西病院の現状と今後について」

医) 偕行会 常務理事・偕行会城西病院 院長 勢納 八郎

日頃は偕行会各透析施設をご利用くださり、誠にありがとうございます。

また、皆様には偕行会・病院医療事業部の運営にご理解とご協力を賜りますこと、この場をお借りしてあらためて御礼申し上げます。

さて平成23年4月1日、名古屋市から経営譲渡を受けました「偕行会城西病院」についてご紹介申し上げます。

(共立病院・セントラルクリニック患者会の皆様には会報「四季」で御挨拶申し上げます。一部重複いたしますことをお許し下さい。)



旧名古屋市立城西病院は、昭和11年に名古屋市民病院(現名古屋市立大学病院)の分院として誕生しました。爾来75年の歴史と伝統のある地域の中核病院でした。この伝統と格式のある立派な病院が、赤字で維持できなくなってしまったという事実を、わたし達は重く受け止めなくてはなりません。

私どもが病院を継承するに当たっても、経営が当面最大の課題です。どこかで黒字に転化できなければ、病院としての継続がいずれは難しくなるでしょう。